



今日のキーワード 『街角景気』は先行きが大幅悪化

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。2019年5月の『街角景気』は、足元の景況感を示す現状判断指数（DI）、先行きを示す先行き判断DIともに悪化しました。米中貿易摩擦や消費増税への懸念から、特に先行き判断DIは大幅に悪化しました。

ポイント1

現状判断DIは前月比▲1.2ポイントと、2カ月ぶりに悪化 先行き判断DIは▲2.8ポイントと、大幅に悪化

- 2019年5月の『街角景気』によると、現状判断DI（季節調整値）は前月比▲1.2ポイントの44.1でした。景況感は2カ月ぶりに悪化し、18年1月以来、景気判断の節目となる50を下回っています。項目別にみると、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のDIとも前月から悪化しました。家計動向関連は飲食関連や住宅関連の低下が目立ちました。企業動向関連は製造業、非製造業ともに低下しました。
- 先行き判断DIは前月比▲2.8ポイントの45.6と、大幅に悪化しました。項目別にみると、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連とも低下しました。米中貿易摩擦や消費増税への懸念が影響したとみられます。

ポイント2

現状のコメントは「節約」や「不安」が高水準 先行きは「通商問題」、「消費税」が一段と増加

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーの現状判断に関するコメントにおける単語の使用数は、「節約」や「不安」にかかわる用語が高水準で推移しており、家計の消費に対する慎重姿勢がうかがえます。
- 一方、先行き判断については、「通商問題」にかかわる用語の使用数が急増しており、企業の米中貿易摩擦に対する警戒がうかがえます。また、「消費税」にかかわる用語も増加しており、消費税引き上げへの不安も高まっているようです。



（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な例として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。

今後の展開

“回復”の基調判断は据え置かれたものの、不透明感強まる

- 内閣府は『街角景気』について、「このところ回復に弱さがみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念がみられる」と、基調判断を据え置きました。ただ、5月の『街角景気』は、各項目すべてで前月から低下し、特に先行き判断が大きく悪化しました。米中貿易摩擦の激化による世界経済への悪影響が懸念されるなか、消費税引き上げが10月に予定されており、国内景気の不透明感が強まっています。

ここもチェック!

2019年6月 4日 『法人企業統計』、経常利益が持ち直し
2019年5月16日 4月の『街角景気』は現状判断DIが小幅改善

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。